

第7号
発行所 茅ヶ崎の浜辺 (中海岸地区)
茅ヶ崎協議会事務局
神奈川県
湘南なぎさ事務所 海岸砂防課
茅ヶ崎市汐見台1-7
Tel:0467-58-1473

浜風 通信

平成13年
3月3日

千葉県東浪見海岸事例調査・視察会 開催!!

平成十三年二月十日(土)茅ヶ崎の浜辺(中海岸地区)づくり協議会は、海岸保全施設整備の事例調査として、千葉県東浪見海岸において、現地視察会を開催しました。

千葉県東浪見海岸は、当協議会委員である鈴木正委員からご推薦いただきました。そこで協議会メンバーから有志を募り、視察会を行いました。協議会委員の半数近くの参加者が集まり事務局とあわせ、大勢の見学会となりました。

当日は茅ヶ崎市のマイクロバスをお借りし、茅ヶ崎市役所分庁舎前から出発しました。浮島Jから海ほたるを経由し、千葉県東浪見海岸に到着しました。国民宿舎にて昼食をとり、午後から現地視察を開始しました。視察終了後、同ルートにより茅ヶ崎市役所に帰りました。

東浪見海岸事例調査見学会 平成13年2月10日(土) 9:00~18:00

1. 市役所出発 9:00
海ほたる経由)
2. 現地到着 昼食 (12:00)
3. 視察開始 (13:00)
4. 視察終了 休憩 (15:00)
鈴木正委員のカーフショップにて
5. 現地出発 (15:30)
海ほたる経由)
6. 市役所到着・解散 (18:00)

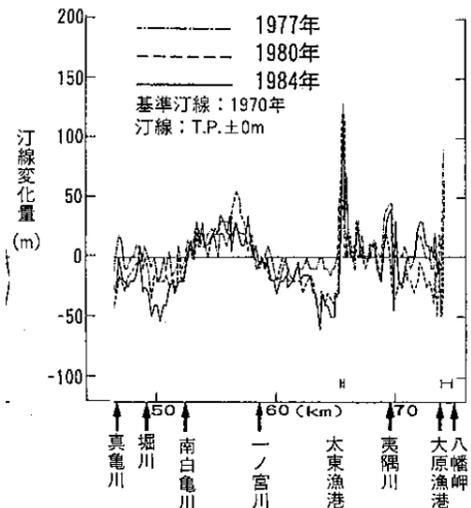
図一① 東浪見海岸視察会スケジュール

◇視察会スケジュール

◇東浪見海岸の現況

東浪見海岸は年間通してサーフィンの大会や地曳網など海に関する様々なイベントが開催されています。一方で、一九七〇年代からの海岸侵食が顕著になってきています。そのため保全施設として突堤が設置されています。

図一②(④)



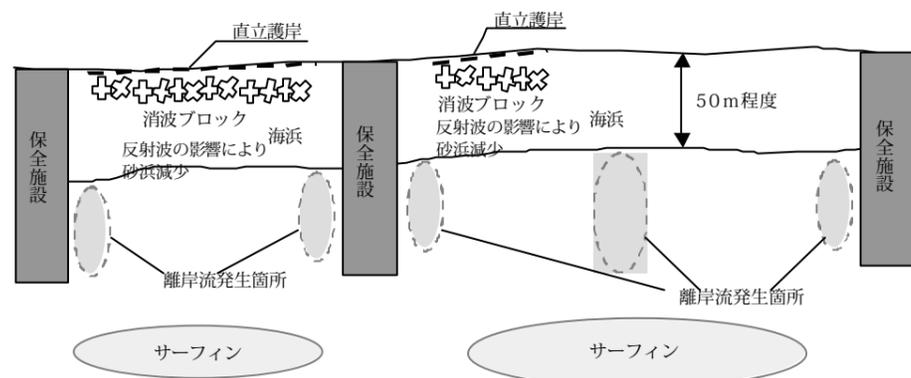
図一② 一宮海岸付近の汀線変化 (1970~1984年)



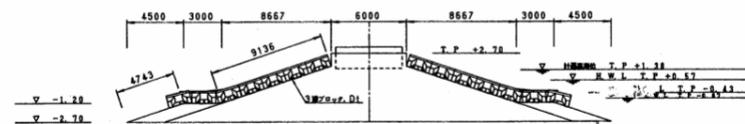
図一③ 東浪見海岸におけるヘッドランドの様子

◇東浪見海岸の現地視察

東浪見海岸を歩きながら、現地視察を行いました。海岸は、侵食対策として突堤が設置されていました。浜辺には以前に設置された直立護岸と消波ブロックが並んでいました。しかし、これにより砂浜は反射波の影響を受けるようになり、より侵食が進行してしまいました。従って、背後に直立護岸が所在する箇所の砂浜は狭くなっていました。



図一⑤ 現地視察による東浪見海岸の施設配置



図一④ 横断図



現在の汀線から五十m程度後退したところに消波ブロック、直立護岸があり、昔の汀線であることがわかります。直立護岸がある部分は反射波の影響で砂浜が侵食され勾配が急になっています。

◇現地視察を終えて

今回、事例調査として現地視察に訪れた東浪見海岸は、海岸保全と海岸利用が効率的に共存していた事例でした。海岸侵食を抑えながら、海岸(海域)の充実した利用が可能となっており、スポーツ大会や地曳網体験等の地元産業に根付いたイベントも行われています。このような海岸整備の事例は、茅ヶ崎の浜辺づくりに大変参考になりました。整備構想の一助となりました。



砂には、砂鉄が多く含まれており、砂は黒く見えました。砂浜にはそれほど砂が落ちておらず、貝が多くありました。

保全施設のサイドと天端の様子。保全施設の堤体は天端幅が6m長さがおおよそ百m程度とあっており、サイドは被覆ブロックで覆われています。防護柵はありません。

東浪見海岸はポケットビーチが2つある海浜形状になっています。1つは幅が広いため、中央部分に離岸流が発生してしましました。離岸流は海水面の泡や色によって発生している箇所や規模が視覚で確認できました。

突堤間の水域は、冬場のため人は少ないが、サーファーが波乗りを楽しんでいました。以前の東浪見海岸はサーフィンに適していない海域でした。保全施設設置後は、ステップ位置が変化し、サーフィンに都合がよい波が来るようになり、活発に利用されるようになりました。

昼食の様子。国民宿舎「一宮荘」にて。

